

## 江田 司教授のご退職にあたって

スポーツ健康学部長 齋 藤 健 治

江田司先生は、2023年3月末日をもって定年退職されました。江田先生はスポーツ健康学部に「こどもスポーツ教育学科」が設置・開設された2015年4月、名古屋学院大学に着任されました。その後の8年間は、小学校教員養成課程でもあるこどもスポーツ教育学科において、音楽科教育を中心に、教職関連科目、ゼミなどの学生教育にご尽力されました。ここに改めて感謝申し上げます。

江田先生は、和歌山大学教育学部、大阪教育大学大学院教育学研究科において、作曲、音楽教育を専門に学ばれました。その間、小学校教員免許および中学校・高等学校「音楽」の教員免許、教育学修士（音楽教育）を取得され、1979年から2015年まで和歌山市の小学校で音楽教育に専心されました。

小学校での音楽授業では、授業参観のために全国から年間500人の音楽教育関係者が来校したり、ドイツのヴィーレフェルト大学・ベルント・クラウセン教授が来校して、その著書『月のうさぎ』において江田先生が行った「民謡」や「浄瑠璃」の授業がドイツ語で詳細に紹介されるなど、その斬新で独創性に富んだ音楽教育が高く評価されています。また、ご自身で発表された音楽鑑賞論文が最優秀賞を受賞されるなどの研究成果もこの時期にあげられており、さらに月刊誌「教育技術」の連載を8年間、月刊誌「教育音楽小学版」の連載を9年間、季刊誌「音楽鑑賞教育」の連載を20年間などの執筆も務められています。このような教育実績が認められ、英国BBC放送の取材を受けたり、文科省国立教育政策研究所の調査研究委員を務められたり、出版社から狂言師の野村萬斎氏との対談を依頼されたり、全国各地での研修会や講演に講師として招待されたりなど、その活動の幅広さはまさに枚挙に暇がないほどといえます。

このような学校現場での音楽教育の傍ら、市民オーケストラ（ヘンデルのメサイア他）、市民オペラ（魔笛他）、バレエ団・合唱団（コッペリア、くるみ割り人形、白鳥の湖、眠りの森の美女他）、学生オーケストラなどの指揮者、あるいは近年ではオンラインによる音楽鑑賞のセミナーを運営するYoutuberを務められるなど、音楽教育、音楽鑑賞教育による社会貢献にも取り組まれました（退職後も継続されています）。また、ご自身のチェロ演奏を通じて、ドイツピアノ界の巨匠ゲルハルト・オピッツ氏との共演や、スロバキアの指揮者オンドレイ・レナルト氏に師事するなどの演奏活動もご経験されています。

本学に赴任された後も、音楽教育を中心に様々な音楽分野で活躍され、全国400万人の小学生が使う現行の音楽教科書の執筆を分担されたり、アジアツアーの一環で来日した、サイモン・ラトルとベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の公開リハーサル取材し、そのレポートを「音楽

教育ヴァン36号」に寄稿されたりなど、鑑賞指導の実践研究を理論研究へと昇華されました。

話は戻りますが、本学での教育においては、江田先生のそれまでのご実績、お人柄から、そのお考え、スタンス、感性が学生に染み渡るように伝わったのではないのでしょうか。江田先生と時を同じくして学生生活を送れた学生は本当にラッキーだったと思います。江田先生におかれましては、まだまだ飲酒も嗜まれながら引き続き元気に音楽の世界で活躍されることを祈っております。

引退後は、生活基盤を世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」に登録された「八町坂」真横の「山荘」に移されるとのこと。「ここを足場に指揮/音楽教育/自然に親しむ毎日を送っていく所存でおります」というお言葉から、棒を振ればオンドレイ、盃を挙げれば陶淵明、などと姿（会ったことはありませんが）をダブらせたイメージが膨らみます。

盧を結んで人境に在り  
而も車馬の喧しき無し  
君に問ふ何ぞ能く爾るやと  
心遠くして地自ら偏なればなり  
菊を采る東籬の下  
悠然として南山を見る  
山気 日夕に佳なり  
飛鳥 相ひ与に還る  
此の中に真意有り  
弁ぜんと言ふれば已に言を忘る 『飲酒』陶淵明

令和5年度「和歌山市文化功労賞」を受賞されたとのこと、お祝い申し上げます。